

ステークホルダー交流会 Summer について

～教職員や生徒と企業等が交流・対話を通して連携・協働のきっかけをつくる場～

SDGs 達成の担い手育成（以下、ESD）は、横浜教育ビジョン 2030 に示されている横浜の教育が目指す人づくりである、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」そのものです。

本市では、ESD 推進に取り組み始めてから 10 年目となり、地域・企業・NPO などと連携・協働して、学校教育を通してよりよい社会や新たな価値を創造することを目指しています。

今年度からは GREEN×EXPO 2027 を活用して ESD のさらなる充実を目指しており、

その実現に向けた各校の教育活動への支援の一環として、次の通り実施いたしました。



1 目的

地域や社会の課題解決に向けて、教職員や生徒と企業等が連携・協働する見通しをもったり、きっかけをつくったりする。

2 日時

令和 7 年 8 月 25 日（月）10:00～12:00

3 会場

YOXO BOX（ヨクゾ ボックス）

[YOXO BOX | スタートアップポートヨコハマ](#)



4 参加校と参加人数

（25 校、教職員 42 名、生徒 6 名）

	学校	教職員	生徒
1	幸ヶ谷小学校	1	
2	みなとみらい本町小学校	2	
3	三保小学校	1	
4	市ヶ尾中学校	3	
5	南希望が丘中学校	2	4
6	東高等学校	2	2
7	羽沢小学校	3	
8	旭小学校	2	
9	青木小学校	3	
10	永野小学校	1	
11	鳥が丘小学校	1	
12	小机小学校	1	
13	新羽小学校	1	

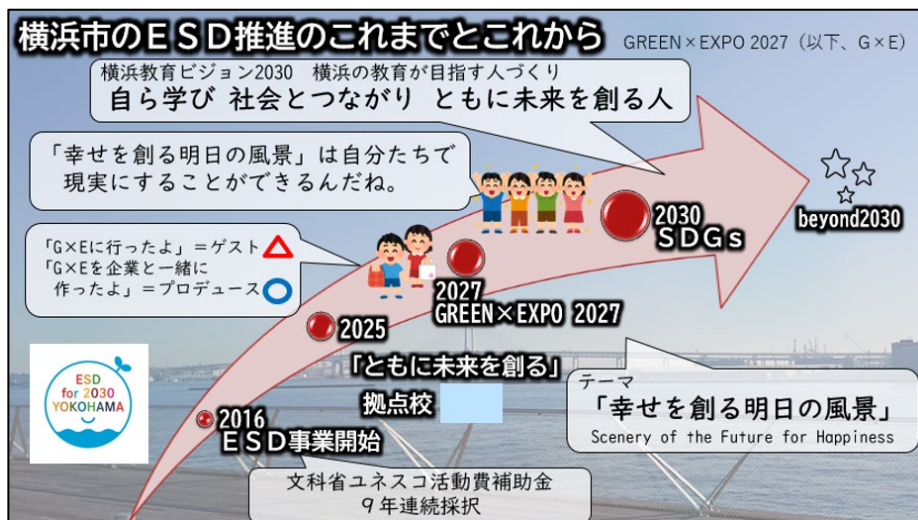
	学校	教職員	生徒
14	倉田小学校	1	
15	品濃小学校	3	
16	緑園学園	1	
17	本牧南小学校	1	
18	保土ヶ谷小学校	2	
19	浜小学校	1	
20	鶴見小学校	1	
21	馬場小学校	1	
22	並木第一小学校	1	
23	横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校	1	
24	老松中学校	4	
25	二つ橋高等特別支援学校	2	

5 参加企業（五十音順）

- ・相鉄ホールディングス株式会社（GREEN×EXPO 2027 Village 出展企業）
- ・株式会社竹中工務店（GREEN×EXPO 2027 Village 出展企業）
- ・株式会社日比谷アメニス（GREEN×EXPO 2027 花・緑出展企業）
- ・ピープルポート株式会社（使用済みPCを再生し、難民の雇用創出や循環型社会の実現に取り組む）
- ・明治ホールディングス株式会社（GREEN×EXPO 2027 テーマ営業出展企業）
- ・株式会社 YD-Plants（新技術で無農薬高麗人参の短期水耕栽培）

※その他に、経済局、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局、GREEN×EXPO 協会、ENEOS（株）根岸製油所、住友林業緑化株式会社、横浜市立大学 三輪研究室からのオブザーバー参加もありました。

6 今年度のこれまでの流れ



5/29スタートミーティング 「幸せを創る明日の風景」とは・・・

地域と学校、子どもと大人が、世代や立場をこえて、
協働し、学び合い、対話でつながり、一人ひとりの行
動（行動変容）が持続可能で平和な未来の構築に向
かっていくような風景（社会＝横浜市の姿）



→今回のステークホルダー交流会 Summer は、

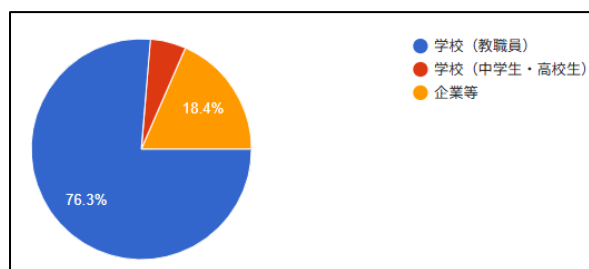
「世代や立場をこえたつながり・学び合い」と、他人（大人）任せにするのではなく、自分たちがやるんだ」という当事者意識からくる、「一人ひとりの小さな行動と対話」を大切にしながら、「地域や社会の課題解決に向けて、学校と企業等が連携・協働する見通しを持ち、そのきっかけをつくる」時間とする。

7 時程及び内容

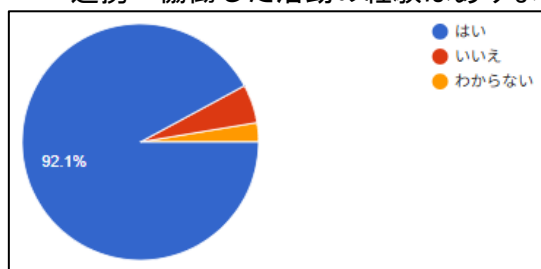
時刻	内容
9 : 4 5	受付開始
1 0 : 0 0	開会
1 0 : 0 5	<p>【ポスターセッション（約 10 分× 6 回）】</p> <p>① 企業等からのプレゼン（6 分程度）</p> <p>② 意見交流（3 分程度）</p> <p>③ 学校教職員及び生徒ブース移動（1 分程度）</p>
	   
1 1 : 1 0	【休憩】
1 1 : 2 0	<p>【意見交流（30 分）】</p> <p>ブース発表を受けて、学校と企業が連携・協働して課題解決していくための相談や意見交流</p>
	   
1 1 : 5 0	<p>開会</p> <p>・感想交流</p> <p>・東京都市大学 佐藤真久 教授による価値づけ</p>
	  
1 2 : 1 0	<p>参加企業とのアフタートーク（任意参加）</p> <p>・感想交流</p> <p>・東洋大学 米原あき 教授による価値づけ</p>

8 事前アンケート結果

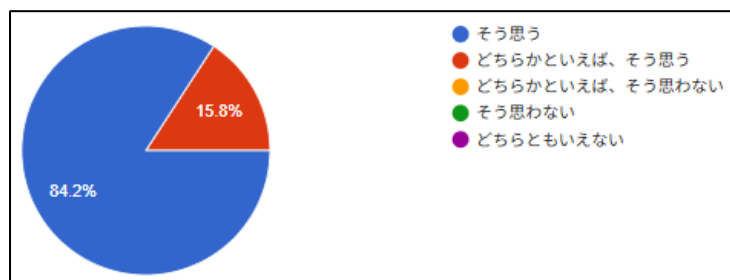
(1) 回答者属性 (38 名)



(2) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働した活動の経験はありますか。



(3) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働した活動をしたいと思いますか。



(4) 本日のステークホルダー交流会で実現したいことは何ですか。

(教職員)

- 学校と企業の連携・協働の可能性を探りたい
 - 企業とのつながりを築き、GREEN×EXPO2027 など社会的な動きと連携した教育活動を模索したい
 - 企業視点で教育現場の課題を捉え直す機会にしたい
 - 今年度だけでなく、今後の連携も見据えた顔つなぎをしたい (継続的な関係構築)
- 情報交換と相互理解の促進
 - 他校の取り組みや活動を知り、意見交換したい。教職員同士、企業との相互理解を深めたい。
 - 小学生の学びに有効な実践の情報共有やアイデアの創出
 - SDGs や企業理念を知り、自校の活動に活かしたい

(生徒)

「GREEN×EXPO 2027 に関しての見識を深めたり、企業さんなどとの交流で自分達の活動のヒントを得て、学校が一体となって更にいい活動をするにはどうしたらいいかを考えるきっかけにしたい。」

「ある問題に対し、課題解決の選択肢として企業と関わることを視野に入れられるようになる」

(企業)

「自分の会社／業界について知ってもらい、連携できるきっかけになりたい (園芸博で当 Village に参加してほしい)」

「地域企業として、どのように横浜市内の学校と共同できるかなどざっくばらんに話すこと」

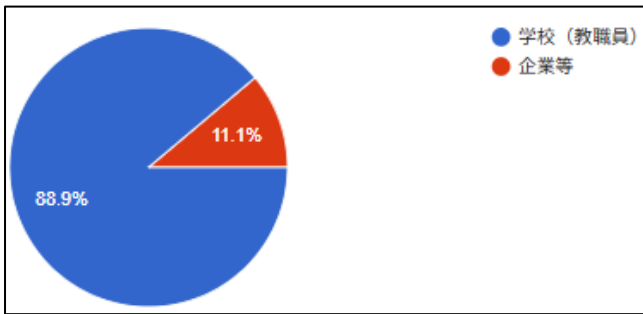
「その他の参加企業との繋がり」

「学校教育現場において、どのような企業との連携を希望されているかを知りたい」

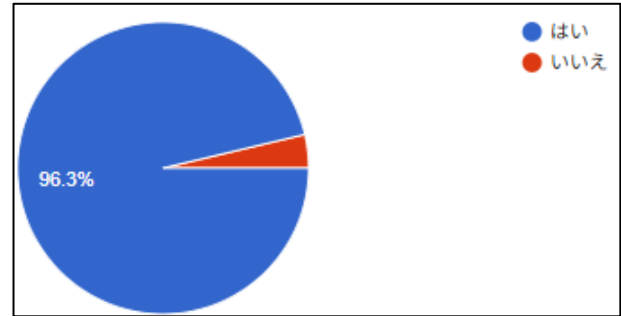
「企業が生徒に情報を伝えることに留まらず、連携しながら地域社会の課題の解決を目指す PBL (Project Based Learning : 課題解決型学習) のノウハウやイメージを掴みたい」

9 事後アンケート結果

(1) 回答者属性 (27 名)



(2) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働するのに必要な情報を得ることができましたか。



(3) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働できそうだ！と感じることができましたか。

はい：22 (81.5%)

いいえ：3 (11.1%)

その他：2 「まだ、具体的な活動は見えていないが、情報交換はできた。」
「あまり積極的に関わることはできませんでした。」

(4) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働して活動する具体的なきっかけをつくることができましたか。

はい：14 (51.9%)

いいえ：10 (37.0%)

その他：3 「今年度は別企画が進行中ですので、来年、再来年度に向けて連携していけそうな手応えがありました。」
「学校ごとにご要望やご意見をいただきましたが、短い時間でしたので具体的なところまではお話しできていなかったかと思います。」
「担当学年が低学年のため、具体的な取り組みが自分にない中なので具体的なきっかけは難しかったですが、今後総合的な学習の時間等に自分に取り組むときに関われそうな方々と出会えたかと思います。」

(5) 学校の方は企業等と、企業等の方は学校と、連携・協働して活動しよう！とする際に難しいことや問題になることは何ですか。

- 予算に関する制約
 - 公立学校では予算確保が難しく、企業との協働に費用がかかると実現が困難になる
- 目的・内容の不明瞭さや目的共有の不足
 - 学校側の「何をしたいか」が明確でない。企業側も「何ができるか」を提示しづらい。
 - どの企業がどんな協力が可能かという情報が不足している。
 - GREEN×EXPO に関しては企業側も構想段階で、具体的な連携が難しい
 - 学校と企業の「スケール感」や「目的」が異なり、すれ違いが起きやすい
 - 子どもと関わることの企業側のメリットが見えづらく、依頼しづらい
- 日程調整・継続性の難しさ
- 教職員の経験・スキル不足
 - 企業との連携経験が少なく、最初の一步を踏み出しづらい（特に若手教員）
- 癒着と誤解されるような活動になる可能性がある

→今後の連携促進には「情報の見える化」「目的のすり合わせ」「継続的な対話の場づくり」が鍵になりそう

(6) 今回のステークホルダー交流会で実現できたことは何ですか。

- 企業とのつながり・ネットワーク構築
 - 新たな企業との出会いやコネクションづくりができた
 - 協働可能な企業の発掘につながった
- 企業理解と教育への活用
 - 企業の取り組みや考え方を知ることができた
 - 学校側が企業から期待されているイメージを把握できた
 - 他校の取り組みやアイデアも参考になった
- キャリア学習・教育活動へのヒント
 - 今後のキャリア学習や教育活動のアイデアが浮かんた
 - 校内への情報発信や連携準備への意欲が高まった
- GREEN×EXPO 2027 に向けた関心と可能性



今回のステークホルダー交流会 Summer は、全体として、「出会い」と「理解」が深まり、今後の連携や教育活動への前向きな動きにつながる場になった。目的であった「地域や社会の課題解決に向けて、学校と企業等が連携・協働する見通しを持ち、そのきっかけをつくる」は達成できたと言える。

「立場をこえたつながり・学び合い」は大切にできたが、一方で「世代をこえたつながり・学び合い」や「一人ひとりの小さな行動と対話」を大切にするためには、「情報の見える化」「目的のすり合わせ」「継続的な対話の場づくり」が今後の鍵となりそうだ。